

亀山東小だより

令和6年11月25日(月)

亀山市立亀山東小学校
亀山市本町一丁目9番9号
TEL:82-0011 No.8
(文責:校長 加藤 元由)

「ひと」から学ぶ

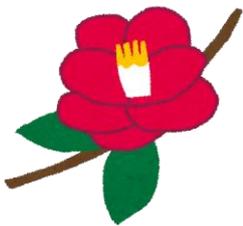
4年生の社会見学を終えたばかりですが、あらためて、「ひと」から学ぶことはとても心に響くし、あたたかさを感じると実感しています。4年生は四日市市方面に行きました。例えば「ばんこの里」で萬古焼の絵付け体験をさせていただきましたが、絵付けの方法を学ぶだけでなく、本や動画からでも学べるかもしれません。しかし、デザインのくふうを褒めていただいたり、色の重ね方について質問をしたり、リアルタイムで助言をもらいながら交流して取り組む活動は、たいへん貴重なものでした。

校長も、先月、東海北陸地区の校長が集まる研修会に行かせてもらいました。その際、将棋界から講師として、藤井聡太七冠の師匠である杉本昌隆氏をお迎えしました。氏のご講演で、「若い世代を育てるには、環境を整えて、自由にさせることが必要だ」と教わりました。こういうことばも、本や動画ではなく、直接、氏の口から発せられたものを自身の耳で聴かせていただいたことで、とても胸に迫り、心を動かされたと感じています。

亀山東小学校の児童たちは、その点、とても恵まれています。様々な道の専門家や、様々な世代の方々から、日々、たくさんのお話を教わっています。今後も、機会がございましたら、子どもたちに直接、それぞれのお立場からお話いただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

*ゲスト・ティーチャー等から児童が学ぶようすを、いくつかご紹介します。

☆消防についての学習、亀山高等学校の生徒によるプログラミング学習、亀山東小学校の歴史を学ぶ学習、「亀山トリエンナーレ」見学です。



「やさしい日本語」について考える

11月1日（金）に実施されました「亀山東小学校 教育懇談会」では、『やさしい日本語～誰にでもわかりやすく伝えるために～』と題して、三重県環境生活部ダイバーシティ社会推進課で活動されている3人の国際交流員さんから、お話を伺いました。外国につながる方だけでなく、さまざまな方々にとって、「易しくて、優しい」日本語を考える絶好の機会となりました。この『亀山東小だより』で使っていることばは、どうてい「やさしい日本語」になっているとはいえません。近々、ホームページの記事で試験的に導入を試みますが、本来、だれにとっても「やさしい日本語」が、日常的に広がっていくべきだと思います。

学校からのお願い ～家庭学習を介したコミュニケーション～

子どもたちの学習を定着させ、学力を伸ばすためには、学校の授業だけでなく、宿題などの家庭学習がたいせつです。お子様は、毎日、集中して机に向かっているでしょうか？

ご家庭には、テレビやゲーム、スマートフォンやマンガなど、子どもたちにとって誘惑されやすいものがたくさんあるのが、現代の事情かもしれません。

そこで、お願いします。保護者の皆さまはお忙しいとは存じますが、宿題や家庭学習に取り組む児童に、少しでもお声がけいただけませんか。すでに、たくさんのお声がけをいただいているご家庭もあるとは思いますが、重ねて、お願いしたいです。

たとえば、「もう、こんな問題やっているの。けっこう難しいね」「この教材、昔、習ったよ。なつかしいなあ」のような共感するお声がけであったり、「家へ帰ってから、もう、こんなに問題といたの？すごいね」「漢字ひと文字ひと文字、ていねいに書いているね。自分が子どもの頃には、こんなふうには書けなかった」などと子どもの頑張りを認めていただくお声がけであったりすれば、子どもにとって、とても励みになることでしょう。

ときには、わざと「この問題、どうやって解くの？教えて」などと、子どもに教わるような場面を作っていただくことも、効果的かもしれません。「この答って、なんか違うような気がするんだけど、どうかな」などのお声がけで、子どもが自身のつまずきに気づけるかもしれません。

「もう、宿題終わったの？点検するよ！」だと嫌な顔をする子も、お声がけのしかたひとつで、家庭学習大好き児童に変身してくれるかもしれません。可能な範囲で、家庭学習を介したコミュニケーションを試みていただけると幸いです。



亀山東小学校のホームページでは、日々の子どもの教育活動や学校の様子を随時更新中です。ご覧いただけると幸いです。

<http://www.kameyama-mie.jp/kblog/higashi/>

QRコード→

